

# 夏休みを有意義に 過すために



しでがの通信  
第 63 号  
羽津小 P・T・A  
編集発行  
発行所 羽津小学校

## 豊かな情操ある

## 健全な夏休みを

教頭 小塚 久美雄

### 目次

夏休みを有意義に過ごすために	1
手近かな実行から	2
家庭は何をするところか	2
家庭教育と塾について	4
みはと分校	7
声の窓から	8
朝の集団登校	11

夏休みは子どもたちにとって楽しい期間であり、平素の学校生活では得られない有意義な経験をしたり、知識や見聞を広め、豊かな情操を育てたりするのによい機会です。

しかし、一方気のゆるみなどから健康を害したり、問題行動をおこしたり、ちょっとした不注意がもとで、水難事故や交通事故など痛ましい事故を起こしたりする場合もありますので、夏休み期間中におけるお子さまたちの生活については、ご家庭においても、ごまかい配慮をしていただく必要があるのではないかと考えます。

一、自らすすんで計画し、実行することによって、「できる」よるこびをもち、家庭生活の楽しさ

小塚 久美雄

二、休み中の時間をむだにすぎずこのないよう、自らすすんでする生活態度を身につけさせる。  
三、心やからだを充分きたえらるとともに、休養をはかる。

四、地区子ども会活動、行事等にはすすんで参加する。  
五、交通安全は勿論のこと、水の事故、危害予防に気をつける。  
以上のことがらをもとに

1. 日常の生活  
△むりのない計画・日課をたて生活に折り目、切り目をつける。

△町子ども会、学級会できめたことは守る。  
2. 休み中の学習  
△めあてをきめて、よくばってしない。

△朝の涼しいうちに  
△ふだんできない観察・製作・調査などを根気よく

3. 保健・安全  
△治療を要するものは長い休みを利用して

△ふだんの生活とちがいます。  
交通安全に特に気をつけましょう。

4. その他  
△学校プール、震が浦プールの利用については学校からの注意を守り、事故のないよう、人にめいわくをかけないよう

△外出については、行先・目的・帰宅予定時刻を家の人に必ず告げる。  
△学校の考えをまとめました。ご家庭で役立ていただきますようお願い致します。

長い夏休みのあと「よかったな」、「これができた」、「楽しかった」と心にのこるものがあるように、意義あるものにしていただくことをねがってやみません。

子育てへの関心のたかまりととも、家庭教育についての学習が盛んに行なわれるようになってから随分と年を経ています。そして、いま、子どもが中学生、高校生に成長して、改めて子育ての難しさを痛感しておられる人も多いのではないのでしょうか。私も、高校生の子どもを持つ親として、毎日のように新聞紙面を飾っている少年非行の記事が、全く他人事とは思えない切実な問題として身にせまっ

### 手近かな実行から

四日市市青少年課長 桜井 寛

てくる者の一人です。このような昨今、家庭教育の重要性について改めて問い直されていくことは大へん結構なことだと思います。しかし、家庭教育を難しく考える前に、まず、家庭づくりからはじめることではないでしょうか。教えることより手本を示

## 家庭は何をするところか

学校長 村上 忠夫

「家庭は何をするところか」学習の場か、生活の場か。」と二者択一に迫られたとき、学習の場であるとの答はまず返ってこないと思います。

小学校や幼稚園の子どもたちにとって、家庭はことに大事な生活の場であるだけに、健全な家庭環境の中で子どもを育成することが強く望まれます。

健全な家庭生活の中で大切なことは、まず祖父母、両親、子どもなど、家族間の和合であって、理解と協調に基づく民主的な家族関係

### 青少年の育成は 家庭から

羽津地区青少年育成協議会 奥 高一

現代の青少年を取巻く、複雑な社会環境は決して良いとは言えない、毎日の様にテレビ新聞紙上等に青少年の非行に関する事件が報道され増加の一途を辿っており又、エスカレートしているのが現状であり残念な事である。非行や不良行為の多くは決してある日突然起るものではなく、その兆しともなるべき行動が必ずあるものである。

そこには、家庭生活の構造から起因しているのではないかと思う。家庭生活の防衛から主婦の職場への定着により青少年が学校より帰宅し母親のやさしい姿に接したのが「子供心」ではないでしょうか。その長年の積み重ねが青少年の心の一角に冷たい風が停滞している、その寂しさから子供心の欲求不満から他に何かを求めようとする芽ばえから、「非行化」への第一歩とも言われている。

現在までの非行は屋外での件数が大半以上しめていたのが、数年前より人目につかない屋内での色々な出来ごとが起っている事に、子を持つ保護者として注意する必要があるかと思う。外で遊

すことを心がけようではありませぬか。感化ということの大事さ、子どもたちが家族と一緒に生活をしている間に、自然に学ぶことの大きさにについて考え直したいものです。バスや電車の中でお年寄りに席をゆずる親子連れ……、公園で係に紙くずを拾わせているおじいさん……、そんな姿があたりまえになってはじめて青少年の育成が果せるのではないのでしょうか。

もなくただ「やっちゃった」で事を済ませようとする傾向が見られ、自責の念のなさにあきれるほどです。

「人にめいわくをかけない」のために気ままな自分の心をおさえなければならぬ(自制心)ことは、社会生活の基本であり、最少限の道徳律です。その他、人にものをたずねたり、借りた物を返す場合には、それにふさわしい言語動作(マナー)を必要とします。

家庭では、学習に優先してこうした日常生活に必要な基本的な行動様式を十分身につけさせるよう格別のご尽力をお願いしたいと思います。

礼申し上げます。

### 家庭教育と 育成について

青少年協補導部長 竹尾 栄

家庭における日常生活が、児童の育成に関し、非常に大きな影響力を持つことは、今更改めて言うまでもない事である。然し乍ら、ともすればそれは学校生活に於ける指導育成と言う、本筋に対してあく迄も補助的なものであると見られ勝である様に思う。現在児童の平均的な生活内容を良く考察して見るに、寧ろ家庭教育の中にこそ、児童の育成に必要な数多くの要素を見出し得るものであって、かつて我々が生れ育って来た、所詮家族制度の中に存在した、良い意味での影響力(しつけ)が近年特に薄れて来て居る様に思うので、此の際世のPTA諸兄と一諸に改めて、良く考えてみたいと思

私の経験から思い起して見るに、先づ家庭教育の基本となる形は、両親が子供に対し、①やらせて見る。②やって見せる。③もう一度やらせて見る。の三段階の繰返しであるかと考える。特に一般的な学校教育と異り、両親が直接子供に対し、所詮マン・ツーマンの形で、この三段階の繰返しにより、

### 家庭教育と 育成について

伊東 礼子

家庭教育、又は生い立ちそれは、良いにつけ悪しきにつけ、人間がその影響を、深く受け、生涯影の様にいつまでもまわるものと思えます。それ故に家庭教育は、人間形成の上で、大切な基礎を培う大事な事だと私は、常に思っています。多様化する複雑な社会の中ではたして、物質主義や、利己主義にならぬ子供に指導出来るかどうか、又親は、子供に過保護や、放任主義の態度をとってはいないかなど色々考える事ばかりです。家庭

ぶより「安全な」家の中でとの安心は出来ません。青少年の遊び方も工夫をこらし進歩しているのを目を向けなければならぬのではないのでしょうか。

先日羽津小学校長先生とお逢いました時当該の児童数が四日市市一のマンモス校にいや県下一ではなからうかと語っておられました。名実共に優秀な羽津小と思うと同時に「其の反面」子を持つ保護者として勉学と育成に真剣に取り組んでいるものと思いますが、ともすると子供の事は先生に全面的に任せているから安心「放任」もよからう、しかし人間性・社会性まで先生も目がとどかないのではないだろうか。学校で子供と接する時間よりも家庭生活での心の通じる親子の対話が第一条件ではなからうか。勉学も塾に行くのも大切だろう。しかし校外活動に積極的に参加し集団行動を通じお互いに協力し豊かな心を育て規律正しい人間性・社会性を育てる場として、その重要性が確認されています。

最近の青少年の傾向として、道徳心の低下による犯罪事件など数多い事例をみて、「責任は家庭環境にある」と思います。

又、すべての面で言えることは我が子に対する保護者の甘さが目立ち、更には安易に妥協したり迎合する傾向が高まっているが、こ

れは大きな間違いである。

青少年はむしろ厳しさを求めており、その厳しさによって欲求に対する自制心を持たせる必要があるかと思えます。また青少年の指導や補導の中心は学校や警察ではなくあくまでもその青少年の保護者であることを「十分認識」しなければならぬ。つまり良いことは大いにほめてやり、悪いことは厳しくたしなめてやることこそ真の愛情であり、その姿勢こそ青少年の「非行防止」につながるものであることを銘記すべきであり健全なる社会集団は、健全な家庭集団があってこそ実現されるものであります。

基礎集団である家庭集団をこの際今一度振りかえって見る必要があるのではなからうか。

幸い羽津地区は四日市市、いや県下一の……社会福祉協議会の下に各種団体の組織化が進んでおり、各団体・学校・家庭が三位一体となつて、非行化防止、健全な青少年の育成に地域ぐるみで協力する態勢を、一層の連絡を取り、融和のある運動を展開しようではありませんか。

最後になりましたが、いつも青少年協の各行事に際しまして、各団体役員、学校当局のご理解とご協力に感謝致します。「しでがの」紙面をおかりしまして、厚く御

教育で、一番大切な事は何んだらうと考えますが、子供にも能力・個性・その他色々個人差と云うものがあります。

例えば、体を使う事が得意な子供、音楽の好きな子供、又緻密に物を考える事が得意な子供、同じ両親から生まれても、本当に様々だと思えます。それ故に親は、一人一人充分な理解と暖い愛情を、そそいで日常の生活のしつけをして行く、本当にそう有りたいたと努力して居る日々です。

所が、親と云うものは、学校の成績の良い子供を見ると、つい良い子だと思いたくなるもので、勉強して居る姿を見て居ると、つい家庭での分担任事もさせずに置いてしまふのです。そうゆう時、あまり勉強の得意でない子供は、自分の事、又家族全体の手伝い事などかなり協力的です。(考える事より行動的だから)

そう云う場合、どの様に指導して行くかなど、皆様の家庭でのしつけは、如何でしょうか。色んな問題を持って居る母親同志で話し合い考えてみましょう。

しでの1号(62号)に家庭でのしつけと、学校生活と題して、具体的な例が載せて有りました。家庭で親がこうすれば↓学校では、子供がこんなになる。では、家庭でどうすればよいか。教育維

誌からの転載したものだそうですが、とても分かりやすく、大変参考にになりました。

今回のテーマ(家庭教育と育成について)は、誰しも関心の有る事ですが、とても問題が広く深いので、なかなかまとまりませんが、結局子供の家庭教育や、社会における子供の健全育成など、教育指導する側のものが、家庭教育の技術、社会全体の子供を育成して行く技術、それぞれ深く深く学ばなければならぬのではないのでしょうか。



### 家庭教育と塾について

#### 家庭教育と育成について

大宮西町 平谷 次郎

上の娘が小学六年生、下の息子が小学一年生、子を持つ親としてすでに十数年経った今、ふと気がついてみると子供たちに何もしてやらなかったような気がします。

物質的な環境については、与えるか与えないかは別にして、何とすれば、あとは精神的な部分をいかに充実させるかが問題であるように思われます。

#### 文化 部



す。天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」と云う、一先生の主張された言葉であります。

今日では「点」試験の点は、人の上に人を作り、人の下に人を作る、という事において、試験戦争が生れたと思えます。それで、勉強の主役は、子供自身であるはずなの

おり、そして子供たちとともに育てられてきたようです。

そんな多くの家族の中、意外と父親、母親である者が、おじいさんやおばあさんに、まず親としてのあるべき姿を教育されてきたのではないのでしょうか。

現代私自身について考えてみると、果たして親として家庭内で子供たちを社会で役立つよう、また集団の中で人間らしく生活できるように教育できるものを持っていくのかどうか、自信のカケラもないように思われます。

しかし子供たちは日、一日と成長してしましますが、子供たちと共に考えて育てたいと思えます。

に、今やその重みは、子供だけはおいきれず、親も共々負うようになってしまった。

試験をめぐって、親と子との間、夫婦と姑との間にも、きれつが生じたり、戦いが表面化したり、子供が非行化したり、と云うような例は数多くあると思えます。そこ

で先生方お忙しい時間集まっていたら、今の子供の環境を先生方から見ての、率直な意見を拝聴致しました。

親側の考え方で、よその子供が行っているから、自分の子もやる。友達がいないため、塾にやると友達が出来、勉強が出来るのではなか、子供が行く気がない(希望していない)のに、目的なしの塾にやる、おしつめたやり方、本人が目的を持って行くのは別だが、自分で勉強のやり方を見つけてやると、学習塾は必要ない。塾でも復習塾と、予習塾とがあるようですが、復習塾では、習った事を自分のものにするという点では、良いし、余暇をとらえて趣味の塾だったら、良いだろう。

色々と、貴重な意見を拝聴しまして、大変勉強になりました。塾と云っても、いちがいに、良い悪いの判断はむずかしいと思いますが、その子を良く知って、先生方と話し合い、その子に合った学習をさせる事が、第一ではないかと云う気がします。今の子供達を見ますときに、辛抱がないように思いますし、根気がなく、飽きっぽいような気もします。いつまでも元気に明るく、自分から進んで、物事に取り組むような子供になつてほしいと願うものです。(とにかく勉強にとりかかれ)机

に向つたらペンをとれ。教科書のいま習っている課のタイトルを書く。習ったことを思いだして書いて見よ。目をつむって習ったことを順々に思い出して見よ。と書かれた、先生の言葉があるように、これが家庭学習をきちんと軌道にのせるコツだそうす。

われわれ親達は、家庭のしつけを第一として、子供の気持をよみて、一緒に考える時間を作る事が大事ではないでしょうか。

#### インタビューに出席して

K・S

学校で勉強する教科を「学習塾」で、なぜ・どうして・どのような方法でしなければいけないのか、疑問でなりません。ここでやはり教師・親・子供三者の話し合い(授業時間中塾で習った事がじゃまになる。親の責任のがれ。子供は遊びも勉強。子供に本当にあった塾を選ぶ事)が必要でありより良い方法で、基礎教科を身につけさせたいと思えます。

学年別の先生方で理想どおりの発言でありましたが、既婚者で教師歴も長年のせいではないかと思われしました。未婚者で教師歴も浅く自分自身「学習塾」という渦の中を通過してこれました先生の御発言も聞きたいと思いました。

今後、あちこちの広場・公園でのびのびと遊んでいる子供の姿が一人でも多くなることを希望して生徒と共に親のより良い相談相手になっていただけますようお願いいたします。

#### 家庭教育と塾について

城山町 N・S

親が家で、子供に色々と、教えたり、注意をしたり、しつめたりする事のみが、家庭教育なんだろう。一つの知識を身につけるにしても、個人差と云う問題もあるし、一概には、決定できないものもあると思う。

一十一が、二である事は、いかなる理由があろうとも、正しい知識として教育せねばならない。しかし、家での教育には、お互いの

### 給食試食会終わる

母親部・福祉保健部

去る五月三十日、一年生の父兄を対象に、給食試食会が実施されましたが、百余名の方が参加されました。

当日は、まず講堂にて、映画「世界の子供達」等を観賞した後、四日市市教育委員会の渡瀬先生の「四日市の給食の実態」等のお話を聞かせていただきました。続いて各

教室に別れ、給食の試食後、給食についてのアンケートを取らせていただきましたが、九十七名の方が協力して下さいました。その結果の主なものを報告致します。

◎ 給食(副食)を喜んで食べてきますか。  
一、毎日喜んで食べてくる。七十一名

- 二、しかたなしに、食べてくる。十四名
- 三、食べるのが苦痛のようだ。六名
- 四、さらってはいるが、量が多くて残す。六名

◎ 毎月「学校給食献立表」が届けられています。読んでいますか。

- 一、毎月読んでいます。六十五名
- 二、時々読んでいます。三十二名
- 三、読まない。〇

◎ 献立表の活用について

- 一、その日の献立が、夕食と重ならないように、気を付けている。六十名
- 二、給食とは関係なしに、夕食を作る。三十七名
- ◎ 本日試食した給食について
- 一、おいしかった。二十七名
- 二、普通。六十二名
- 三、まずかった。八名

# 料理教室

六月二十日、又教室が開かれました。去年も参加して、楽しく料理が出来たことをおぼえていたもので、今回も参加することに決めました。献立は、手作りコンニャク、ピロシキ、ヨーグルトサラダ、で

◎ お子さまの給食費と給食内容について。

- 一、このままでよい。三十名
- 二、もう少し給食費は上ってもよいものを食べさせて欲しい。
- A、月額二〇〇円位値上げしてもよい。三十六名
- B、月額五〇〇円位値上げしてもよい。三十名
- C、月額一〇〇〇円位値上げしてもよい。一名

その外、給食全般について、左記の様な御意見がありました。

- ・もう一品欲しい。
- ・給食の時間を、長くして欲しい。
- ・パンの量を減らして欲しい。

以上の様な結果でした。

この給食試食会のために、多くの父兄の御協力を頂き、ありがとうございました。

今後共、母親部、福祉保健部のために、皆様方の一層の御理解と御協力を、お願い申し上げます。



る人がいる。顔見知りの人は少ないけど、いいわ。と思って、班別テーブルに座わる。

材料メモをもらって取りかかる。そのうち粉末袋が、配られる。これが例の手作りコンニャクだ。ぬるま湯で溶いて煮つめれば、見事なおいしいすき透ったコンニャクだ。甘味噌で食べた。普段食べてる味だけど、手作りだけに、トロリとして格別美味しい。五〇グラムの粉で、六丁程出来る。又、ピロシキは、ロシア料理で、パンを作る要領で粉を丸め、中にコンニャク、野菜等を入れて、こんがり揚げます。コンビーフの塩味が効いて、十分な味です。うん、これ



## 料理教室に 参加して

母親部副部長 海住明美  
梅雨のうっとうしい日にかゝわらず、定員40名でしたが、50名程の方に参加していただいて、家庭室がふくれあがるかと思う程にぎやかに料理教室が開かれました。

- 献立は
- ピロシキ
- 手づくりのこんにゃく
- ヨーグルトサラダ

前号で、園外指導の道で逢われたら、ぜひ、挨拶をしてやってお話しとお話ししました。ところで、つい先日、中部日本新聞が、障害児保育問題を連載された中に次のような内容のことがのっていましたので引用させていただきます。ご理解を深めていただきたいと思います。

名古屋市内の保育園にダウン症の子を入園させたあるお母さんは、子供の泣き声が近所迷惑になるからと転々と住まいを変わった。泣き声をカムフラージュするために新幹線わきの家に引っ越したことも。夜、子供が泣きだすと、ふる場へ入れてドアをびったり閉める。「なぜ、

最初、資料と黒板を見た時は、何かむずかしい物を作るのだなと感じたのですが、ホームベーター協会の小泉先生、助手の上野先生のおかげでわかりやすい説明と実習により、何とか手をつけ出した。始め出したら、小学5・6年生の家庭の時間が思い出された「隣の班の方が上手に出来ているわ」とか、「あちらの班は早いわね」と、ワイワイ、ガヤガヤと料理が作られていった。料理音痴の私のような者が参加していると思えば、料理

それまでして」と第三者は考えるかもしれないが、心を貝のように閉ざしたこの人たちにとって、とるべき道はそれしかなかった。「まわりの人が敵に思えてなりません。家を一歩外に出れば、みんなに見られているような気がして

## みはと分校

分校 山川 太門

て……」 中略

そんな障害児をもつお母さんがなによりもうれしく思うのは、近隣の人たちの温かい目だ。「Kちゃん、よくしゃべれるようになったわね。」「最近太ったみたい。」「と気軽に話しかけてくれることだ

の先生かと思うぐらい何でも知っている方も、参加していらっしやいました。この頃の家庭では、インスタント食品が豊富に出廻っている為、ついつい簡単な方を選んでしま、とても手のこんだ料理を作る機会がない。(特に私は)いかに料理のレパートリーが狭いかわかってしましますが、ピロシキなどは、見るもさわるも生まれてはじめてのこと、こんにゃくを家庭で作るなど考えても見ませんでした。やはり手作りと思わ

という。 後略

バラ色の生活設計を描き、将来に大きな期待を寄せていたわが子が障害児であると知ったときの落胆は普通児の親には容易にわかってもらえないでしょう。しかし、

その親が子供のために目覚め、周囲の冷たい目にも耐え、たくましく成長するまでは、まさにいばらの道でしょう。

今、みはと学園には30人の子供が在園していますから、30人のおかあさんがいます。おとうさんも

せる程おいしい、栄養価の高い物が出来ました。これを機会に、我が家にも手作りの凝った料理を取り入れて見ようと、帰り道に決心したものです。

念の為、書きそえますと、その日の夕食は、スーパーで買ったお惣菜物でした。



います。そのほかの家族の人たちがいます。そのいばらの道を歩みながらも、ずい分たくましくなられました。同じ悩みをもつもの同志のたすけ合い、励まし合い、そして、自分からは何も訴えることのできない子供のためにたく手を結びあっておられることが、大きな原因になっているのだと思われま

「福祉とは」「差別とは」などと大それたことを言っているのではありません。かれらやその家族の人たちへのちっぽけな理解が、やがてみんなが笑いあえる地域社会づくりに成長していくのだと確信しています。

剣道と私

別名一 藤山 正博

最近、スポーツで著しく、普及し、見直されて来たものに、日本古来の剣道が取り上げられる。

大人はもとより、小学生などの年少者から女子に至る迄、剣道人口の幅広い増加には、目を見張るものがあります。街でも、竹刀を持った子供達が、道場通いする姿をよく見掛けますが、私も、剣道を好む一人として、大変うれしく、又、親しみを感ずるのであります。

声の窓から



お前をく 背の津氣 小羽の親 望み 満ちて 希望

のコミュニケーションの確立が計れる。

以上のような特長から認められたものと思われまふ。しかしながら夏稽古の苦しさ、冬の寒い時期に於ける稽古の辛さは、やはり体験してみないとわからないもので、これら乗り越えること

によって、自分の氣持に、勇氣と自信を持つことが出来るのではないのでしょうか。そしてここから、根性という言葉が生まれてくるのだと、私は確信しております。真剣に、稽古に取り組み額から流れ落ちる汗を見ると、仕事の疲れなどふっとんで、壮快な気分となり、明日への活力が湧いて来るような氣が致します。

私も二児を持つ親ですが、剣道をやつて来たからといって、子供には、押しつけ、勧めるようなことは決して致しません。が、これまでに、苦しみや、辛さから習得してきた、剣道精神は、教えてやりたいと考えております。

英語の必要性

大宮西町 飯田 敦子

幼き日、毎日通った思い出の、小学校へ、今年、母として、長男の手を引き、なつかしい氣持一杯で、校門をくぐった日から、早や三ヶ月がたちました。長男も、学校生活に慣れ、私も、時々、子供の宿題や、翌日の用意を、点検しながら、私自身、何かと勉強出来る事を、喜んでいきます。平仮名一つを、とつても、今まで知ったかぶり、随分、いい加減な字を、教えてきたと、反省して、います。学校で懇切丁寧に、教えて載た事を、本心に、うれしく思つて、おります。

教科内容は、年々、難かしくなっている様で、先生も、生徒も、のんびり時間をかけて、学ぶ事が出来ず、大変だなあと思いますが、科目別に見ますと、二十数年前と殆んど、変わっていない様に思ひ、これで、いいのかしらと、考え込まず、えませんでした。私が、小学校に、学んだ頃は、まだ、敗戦から立ち上がるうと、していた時代で、国際的な関心は、少なかったかもしれないが、今は、他の国を、無視して、生きる事は、出来なくなつてきているし、まして、次の時代を、背負つて立つ小

一年生を持つて

別名 陣田くに子

入学して、早三ヶ月になろうとして、います。今では、子供もすっかり学校生活に慣れたのか、毎日楽しく行く様になりました。

入学当時は、子供自身にも、緊張感があったのか、幼稚園の時とは違って、朝の早起き、そして、洋服の着替えと、自分で進んでやるようになり、私もびっくりしてしまいました。やっぱり子供が

し て が の

らに「一年生になったんだ。」と、思ふ実感があつたのではないでしようか。

「健康的で比較的 安全なスポーツ である。」 「礼儀を重んじ、且つ精神修養 に役立つ。」 「短時間で多くの運動量が、得られる。」 「友人関係の拡大、大人と子供 自身の、不安な氣持の中で、一番の心配は給食の事でした。」 「全部食べられたかな。」と、すると、子供は「全部食べられたよ」と嬉しそうに答えてくれます。私は「偉かったね。」と、ほめてやります。この頃では「おかず残さなかつたよ。」の返事が、返ってくるので、私もほっとして、います。嫌いだつた物も、食べられるようになったし、始めての物でも食べてみようよと、言ふ氣持になつて来て、本当に喜んで、います。一人っ子で淋しがりの子供だけに、私はいつも「お友達を大切に、して、沢山のひと遊ぶのよ。」と言つて、います。

これからの長い年月、子供がどのように成長していくのか、楽しみにして、健康で元氣よく、学校に通つてほしいと願つて、います。

ワールドカップに思う

別名町 川崎 孝一

六月一日から、スポーツ界最大の大会と言われる、ワールドカッ

プサッカーが始まり、テレビ・新聞を通じて、アルゼンチンでの熱狂振り、その熱狂的な背景としたアルゼンチンチームの予想外の快進撃が、伝えられて来る。テレビ・新聞で報道されるアルゼンチンの熱狂振り、想像を絶するものであり、異常とも、馬鹿げているとも、又無邪氣とも思えるものである。アルゼンチン全体が、母国チームの勝利を願つて、熱狂的な喜び、悲しみ、サッカー、そのものに浸りきつて、いるのである。その是非は別として、そこ迄我を忘れて熱狂し、浸りきれ、という事に対し、寧ろ羨ましさを感じ、又最近の日本の近代化社会に育つ子供達に失われた物を、見る様な氣もする。



常に競争を目的としているとも思える勉強に追われ、楽しみといえども、ただ受動的な型で見るテレビ番組に追われ、何事も程々に、そつ無くこなす、画一的な社会の中で、時間的にも、精神的にも余裕のない状態に有る。

この様な環境の中で、育つて行く子供には、我を忘れ、或る事に浸りきれ喜びを味わえる機会を、出来るだけ多く与えてやりたいと思つて、います。

親として

城山町 森 陽

先日、学校から「しでがの」の原稿依頼をお受けしてからその後、一体「何を書いたら良いのか」と頭を悩まし今日に至りました。

まず最初に思ひ浮んだ事と申しますと、やはり子供の事でしょう。初めての子供が私の母校、羽津小学校に入学して早や一学期も残り少なくなりました。右も左も、わからぬまままだ先生方の御指導のもとに精一ぱい行つて行こうと努力のさざしを見せている我が子に対し、親として激励する事を忘れず、これからの長い学生生活を親と子の二人三脚で確実に、歩一歩精進したいと思つて居ります。

現在、自主性に欠け、内向的な性格である事が、なんとなく歯がゆく思われますが、しかし、子供は子供なりに一生懸命なものでしょう。又、それでいいのだと思つます。これから、いろんな事を学び吸収していくのですから……。

私も、自分の子供と同じ位の年代の時を振り返つて考えて見ますと、その頃は、大分生活環境や教育方針が異なつて居りますが、時代は変わつても、親が子供に対する氣持ちは少しも変わっていないのだとつくづく感じます。きっと、私の親もこの様な思いをし、時代の波を乗り越えて来たのだでしょう。

母のバトンが私に渡されました。親として、これからは子供の成長を、暖かく見守つてやらなければと思ひます。嘘のない、素直な子供に育つてくれる様望みつつ筆を置きます。

入学させて二カ月

別名三丁目 松田 敦子

初めて会う友達と、仲良くやつて行けるかしら。先生のお話を良く聞き、良い子に、出来るかしら。勉強もみんなに、ついて行けるかしら。いろいろいな、期待と不安に胸を踊らせ、入学させて一ヶ月余りが過ぎた。ある日、

子供が「先生が家に来るよ」と、家庭訪問のある事を知らされ待ちました。五月十日の午後、緊張して待ちました。先生にお会いして、子供の学校での様子を、お聞きして、友達も出来、楽しくやっていると、安心しました。が、その時「子供の話をよく聞いてやり、よく知つてやること、そして、信用してやること、それに依つて、子供は安心すること」等、子供に対する親の姿勢を、お聞きし、非常に反省させられました。と、云うのは、私は今迄、叱るばかりの「ガミガミママ」だった様です。まだまだ、幼児と云う、眼で見ていた事に、氣がつかしました。

近頃では、テストもあり、勉強も進んでいる様子です。毎日うっとおしい梅雨ではありませんが、今日も、元気に外へ出て行きました。

母校・羽津小学校

羽津中一丁目 奥村 勝明  
私の母が羽津小学校を卒業したのが大正十三年といいますが、今から五十数年も昔となります。

当時の羽津村は、決して裕福な村ではなく、本場に質素な村であつたと母は言います。

私のきょうだいもみな羽津小学校に通い、私も昭和三十二年に卒業しました。

今また、私の長男が羽津小に入学し、親子三代同じ学校に通うことに、ある種の感慨をおぼえます。

私が小さい時、母から聞いた小学校のこと、羽津村のこと、二十数年たった今も、やけにはっきりとおぼえています。

私も息子に言います。「お父さんの小さい時はアア……。」同じ学校に通っていた、いるという共通の話題に話はずみです。現在の羽津小は、鉄筋コンクリートの立派な校舎になっていますが、もちろん私たちの時は木造でした。

た。しかも当時は、生徒数が少なかったせいか、使っていない教室もあり、かくれんぼなんか楽しい思い出の一つです。なかでも、講堂の舞台の下が通り抜けられて、真暗の中で遊ぶスリルがたまりませんでした。今も昔も、同じ姿の講堂を見るたびに、当時のことが思い出されます。

二段ベッド

竹内やよい

六月中頃の ある日曜日、子供らにせがまれて、二段ベッドを出すことになりました。

二人は、大きすぎです。ベッドの横板、ワク、下板、はしご、六才と、五才の小さな子供が、「ワッショイ・ワッショイ」と、子供部屋まで行くのです。

主人が組立てていくうちに、どちらが上を使うかで、もめだしました。兄は「兄ちゃんが大きいので上に決まっています。」

弟 「でも兄ちゃん、ずっと前ベッドの階段から、二回も落ちたやないか。」  
もううんかです。そこで主人が

「兄ちゃんは下、有倫は上。」やっとなりました。その日は、一日中、二人とも、ベッドへおもちやをもちこんで遊んでいました。

夜になりました。二人ともうれしそうに、「おやすみなさい。」と行って、ベッドにはいりました。

一時間位たつてから、子供らの様子を見にいくと、心配していたとおり、今にも落ちてきそうな寝ざうです。あわてて、ベッドの下に、もしも、ベッドから落ちてきてもいたくない様に、座ぶとんをならべました。

主人は、「明日、大工さんに、上段に、木をうってもらい、さくを高くしよう。そうすれば、落ちることもないだろうからな。」と

どうにか、無事に、だれも落ちることなく朝になりました。

そうして、今では、横のさくの上に、もう一段高くしてあるベッドで、子供は寝ています。

でも、朝になると、いつはいつか、朝になると、いつはいつか、親のふとんにいるのです。

親子会話

大宮西町 郡 佐千代

わが家は、今春から一年生になった一人息子と、夫婦の三人家族、

夫の仕事柄、朝早く、夜遅くで家族との会話はまったくと言ってよい程少ない。当然、子との会話もないので一週間一度、息子と父親との時間をつくり、学校での事、友達との話を話し合うようにしている。その時は母なる私は一歩さがって口出しをしないで、父子の会話を聞いています。それから親子三人で一週間分の報告、したいこと、又今度はこんな事をしてみたいなあと思うような事を話し合い、一家団らんのひとつを過す。最初、夫は子供の教育は母親がやれば良いとの考えで余り心よ

くは、思っていないかったようだが、今では子供のいきいきとした目、また素朴な質問、時には大人顔まの質問や考えに子供の成長ぶりがよくわかり、又子供には親の姿勢が少しでもわかってもらえればと積極的に子と会話を楽しんでいくようである。かといつて、俗に言う教育ママでもなく、子供の責任、親の責任に自覚が生まれ、世の中に出て、余り迷う事なく物事に対処出来る人間になってくれればと願ひ、親の一方的な意見をおしつけるでなく、子を理解し、子に接して良い親子関係、良い家庭を営む事を理想として実践しているだけでまだまだいろいろな事を勉強しなくてはと子供と一緒に成長していこうと努力している次第です。

朝の集団登校

羽津第一会長

山本 真也

ぼくらの町の男女は空地がないので、園芸の温室の前で集合させてもらっています。男子二十三

名は毎朝全員ちこくなしに登校出来るというが、なかなか全員そろって、出発が出来ない。このような事を、なくするには個人が、集団登校の意味をよく理解すれば、こういうことはなくなると思うが、集団登校とは一つに団体生活のポイントだと思ふ。これを守れないのは、どの団体に入っても人に迷

わくをかけ自分自身もはずかしい思いをしなければならぬ。やはり集団登校とは、時間の約束ともいえる。おかれて来る子はいつか町別児童会で聞いたことですが、テレビを見ていたとか、ねぼうしたとか、そういうのがほとんどでした。おそくとも集合時間の五分前にとう着するように家を出れば

いいとぼくは、思います。ぼくの家から集合場所までは、だいたい三分でいけるが、その中で近所のおばさんや、友達のお母さんにあうことがあるが、ぼくは、少し遅れくさい気持ちはあるが、「お

はようございます」とあいさつを最後に毎日ふみ切の近くに立って歩いておぼさんたちがありどう。

金場町会長

大庭 孝幸

ぼくたち金場町は、国道一号线を、わたって、登校しています。横断歩道も、番号もない所を、わたりますので、とても危険なためいつも「交通のおぼさん」が、安全に横断を、させてくれます。

もし、歩道橋があれば、みんな安心してこの危険な道を横断できるし「交通のおぼさん」に、わたしてもらわなくてもすみます。このように、ぼくたち金場町は、とても危ない道がある所を、登校しているため今まで以上に、注意して登校していきたいと思ひます。

八田第三会長

鹿島 徹

ぼくたちの町は八田第三です。ぼくたちの、集団登校の時には毎日旗持ちのおぼさんがいて、車がよく通る道などを、わたる時、旗をふってぼくたちをわたらせてく

朝の集団登校

羽津第二会長

川上 英樹

れるため、ぼくたちは安全です。ぼくたちの集合時間は七時四十分です。でも、その時間になってもこない人がたくさんいます。その時、ちょっと待っています。あまりおそいと、もうさきにいきます。

そして集団登校はぼくがならばせていくのですが、低学年のおもに二・三年の人が列をみだすのでその時、ぼくは注意をするのです。が、全然きいてくれない人がいるのでこまります。

その時、町別子供会で四・五年の人がその人たちのことを、言うのですが、全然気にせず毎日こんな調子です。こんな、じょうたいがつづく事故になるかもしれない。だから事故にあわないように、一人一人気を付けて、毎日無事に集団登校ができるようにしたいと思います。

羽津中会長

加藤 優治

羽津中は、一班 二班 三班として登校してくる。ぼくは、三班としてならんでくる。ぼくたちは、八時までにあつまって、八時に登校してきます。八時には、近くの工場からサイレンがなるのでべりです。朝、学校に行くときは、男子と

女子は、別々で登校します。女子は、一年生が多く、男子は、二年生が多いです。二年生は、ぼくや班長の言うことをぜんぜんきかないで、かってにこうどうをとっています。

ぼくたちの集団登校は、男と女にわけであり男は学校へ行くのが早いけれど女のほうはともおそい。ぼくたちが学校へ行くときになつてから、忘れ物をしてとりに行く人は少ないほうですが、ひとりの人がいつもとりに行くことが多いので、困っているんですが注意しても、忘れ物をとりに行くので、しょうがないと思ひます。

ぼくたちの班に一番多いのが、集合時間におくれる人が一日二十人以上はおります。六年生の場合、ちこくしないのでいいのですが、五年生に一人か二人よくちこくする人がいます。一年生の場合はいくらおそくても、一人ではよく学校まで、これないので、まづつもりでしたが、だいたいの一年生は、ちこくしないので安心です。

ぼくたちが学校に行くとき班長さんが「ならんで」と声をかけるのですが、四年、五年、六年生が、ならぶのがとてもおそいので、班長さんが困っています。

きちっとならんで、学校へ行くの  
ですが、五年生で二・三人六年生  
の後方であらぶ人がいます。  
これからも交通安全に気をつけ  
て、集団登校をしていきたいと思  
います。

八田町会長

小川 泰平

ぼくらのはんは、とても学校ま  
で遠いので、たくさん横断歩道を  
わたったり、ふみ切りをわたった  
りするので、飛び出したりすると  
車がたくさん通っているのでびっ  
くりすることがあります。  
立哨のおぼさんがいないときはこ  
まることがあります。例えば、車  
がなかなか止ってくれないのでわ  
たれないのです。  
スクールゾーンは車が全然通らな  
いので安心して登校できます。  
これからも、事故をしないよう  
に注意していこうと思います。

羽津第三会長

葛山 正也

ぼくらの町は会長も会長だが  
みんなもみんなだ、いくら注意し  
てもまもらない。それはぼくらだ  
けではなくほかの町も同じような  
こともある。これは命をそまつに  
することと同じだ。登校中ふしだ  
らにして事故に合うことがあった  
らぼくも事故にあつたような強い

しょうげきをうけたようにその場  
でがくぜんとなると思う。でもそ  
んなことがないためにも会長がい  
るんだということがわかる。でも  
自分が登校中事故にあつても自分  
でぼくが悪いといえる。それは自  
分がふしだからだからおこつたので

新聞と私

今、目の前には、古新聞の山が  
ある。毎朝毎夕、必ず手元に届  
く読み物——それが新聞である。  
今日程、種々多様な読み物が、氾  
濫している時はない。そこで、人  
々はその多くの読み物の中から、  
自分の読むべきものを選択してい  
る。言い換えれば、今日程、読み  
物の選択が重要な時はないといえ  
よう。

さて、目の前に山と積まれた、  
この新聞のどれ程に、私は目を通  
したといえるであろうか。こんな  
思いをしているのは、おそらく私  
一人ではないだろう。考えてみれ  
ば、種々の読み物の中で、新聞く  
らい、多くの分野から、常に新し  
い尺度でもって書かれた読み物は  
ないだろう。又、新聞は、読者を  
限定しない。現在、殆んどの家庭  
に普及している、情報・文化の泉  
とも言えるこの新聞の意義を、今  
一度考え直す時期が来ているので

自分で反省できる。  
これから考えていかなければな  
らないことは、「命をそまつにす  
るな」ということだ。このごろそ  
ういうことをよくきく。だからこ  
のようなことがないように、ねが  
いたい。

土井 米一

はないだろうか。これ程、新聞を  
容易に見過ごしているのは、何に  
起因するのであるか。そもそも  
何の為に、我々は新聞を購入して  
いるのか。正確で、新しい情報を  
手に入れたいが為である。その読  
んで、知りたいという欲求を満た  
す為に、毎月定額を納めて、新聞  
を購入しているのである。その  
自覚を個人が持ち、積極的に読む  
姿勢を高めてこそ、新聞の価値導  
入ができるのだ。

この新聞ができるまでに、どれ  
程の緑が、地球上から姿を消して  
いるかを考えてみると、改めて恐  
ろしくなると同時に、その意味か  
ら、日頃、当たり前だったその  
読み物に、読もう、そして知ろう  
という意欲も湧いてくる。新聞こ  
そ知識の底辺に属するものではな  
いかと思う。底辺なくして、頂点  
はない。最も容易で、最低限度の  
知識ルートを日常生活に、組み込

む必要を切に感じている。

で  
す  
く  
さい  
ど

◇暑中お見舞申し上げます。  
◇今年も夏休みがやってしまし  
た。暑さに負けず、何か一つ  
目標をきめて、がんばりまし  
よう。

◇この機会に、親子での「体力  
づくり」の輪を 広げてみて  
は、いかがでしょうか。

△投書箱を、ご利用下さい。  
どんな小さなことでも結構で  
す。例えば、不用品の交換な  
どの橋渡しを致します。譲り  
たいもの、譲ってほしいもの  
がありましたら、品物と電話  
番号を記入して、投函して下  
さい。お待ちしております。

◎譲ってほしい物

・ベツト

TEL 三一一二五六

・婦人バイク

TEL 三一一三六四四

